



東京歯科大学大学院歯学研究科

大学院だより

第3号



平成23年度大学院修了式

平成23年度大学院歯学研究科修了式は、平成24年3月23日（金）に千葉校舎第一会議室で執り行われた。この日のために準備したアカデミックガウンと帽子を装った本年度大学院修了生39名に、井出吉信学長から修了証が授与された。続いて修了生を代表して石塚洋一（歯周病学講座）が答辞を読み上げ、厳粛な中にも喜びあふれる式典となった。式の終了後に2回に分けて記念写真を撮影した後、修了生は恩師を囲んで思い思いに記念撮影を行った。

答 辞

修了生代表 石塚洋一

本日は井出学長をはじめ、多くの皆様のご臨席を賜り、このように盛大な大学院修了式を催していただき、修了生一同、心より御礼申し上げます。また、只今は、井出学長より激励のお言葉を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。

我々 39 名は、東京歯科大学大学院歯学研究科博士課程を修了いたします。4 年前、臨床研修を修了し、より高い専門性を身につけるべく、希望と不安を胸に、我々は東京歯科大学大学院の門を叩きました。

大学院に入学し、最初に実感したのは「自身の無知」でした。そこから、試行錯誤しながら学んでいく中で、時に我々の進む道を照らし、時に叱咤激励し、時に支えてくださったのが、親身に指導してくださる先生方、面倒見の良い先輩方、そしてかけがえの無い同期や後輩でした。こうした方々とのディスカッションを通じて、研究の面白さと厳しさを学んでいきました。同じ時代に東京歯科大学に在籍したからこそ得ることができた大切な出会いに、いま改めて感謝しております。本日ここに集った修了生は、研究領域も、専門分野も様々ですが、この大切な出会いは誠に得がたいものであったと、誰もが感じております。

我々、修了生一同は、伝統ある東京歯科大学の大学院を修了したことを誇りに思い、ひとりひとり前を向いて、世界のリーダーシップをとる、研究者・歯科医師として活躍し、新しい時代を創造していく覚悟であ

ります。

最後に、これまでご指導くださいました井出学長をはじめとする諸先生方、職員の皆様に重ねて御礼申し上げますと共に、皆様のご健康と東京歯科大学の更なる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

大学院修了式 懇親会開催

平成 23 年度の 39 名の大学院生が大学院課程を修了した。この謝恩の意をこめて、これまでお世話になった先生方をお招きして、平成 24 年 3 月 23 日（金）大学院修了式後の 11 時半から厚生棟 2F レストランで大学院学生会主催による懇親会が開催された。

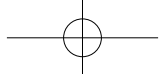
井出吉信学長からの挨拶に続いて井上孝大学院研究科長、東俊文大学院教務部長からの挨拶の後、末石研二大学院学生部長から乾杯のご発声をいただいた。

大学院課程を修了した大学院生は、本学の助教となる者、ポストドクトラル・フェローとなる者、レジデントになる者、歯科医院に勤務する者、他大学に行く者など進路は様々であるが、皆、約 4 年間の大学院生活を振り返りながら、あらためてご指導頂いた先生方との懇親を深めていた。歓談の中、大学院学生会長の石塚洋一（歯周病学講座）の挨拶の後、突然指名を受けた大学院生が、順に大学院での苦労話や思い出を皆の前で語った。また、安村敏彦（歯科矯正学講座）から次期大学院学生会長としてスピーチがあった。最後に、末石研二大学院学生部長の一本締めで無事、閉会となった。

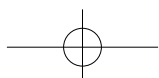


平成23年度大学院修了者 (学位記番号順)

	学位記番号	氏名	所属講座	学位論文題名
1	1927号 (甲1177号)	白谷 聡	歯周病学	Effect of basic fibroblast growth factor on root resorption following delayed autotransplantation of tooth in dog
2	1928号 (甲1178号)	橋本 和彦	臨床検査病理学	Identification of peptide motif that binds to the surface of zirconia
3	1933号 (甲1179号)	市島 丈裕	オーラルメディシン・口腔外科学	Osteogenic differences rats cultured periosteal cells under hypoxic and normal conditions
4	1934号 (甲1180号)	白 賢	臨床検査病理学	Epithelial cell rests of Malassez modulate cell proliferation, differentiation and apoptosis via gap junctional communication under mechanical stretching force in vitro
5	1935号 (甲1181号)	野田 克哉	歯周病学	Effect of platelet-derived growth factor-BB on root resorption after reimplantation of partially denuded tooth in dog
6	1936号 (甲1182号)	岡田 晶子	生化学	Regulation of nodal-lefty expression by TGF- β induced pluripotent stem (iPS) cells derived from mouse oral mucosal tissue
7	1937号 (甲1183号)	木村 裕	臨床検査病理学	Initial attachment of human oral keratinocytes cultured on zirconia or titanium.
8	1938号 (甲1184号)	小貝 隆広	歯科矯正学	Influence of experimental hemi-occlusion on biological apatite crystallite alignment in rabbit mandibular cortical bone
9	1939号 (甲1185号)	片山 愛子	クラウンブリッジ補綴学	Radial-flow bioreactor enables uniform expansion of human mesenchymal stem cells on 3-D scaffold
10	1940号 (甲1186号)	佐塚祥一郎	歯科麻酔学	Dexmedetomidine dose-dependently decreases oral tissue blood flow during sevoflurane and propofol anesthesia in rabbits
11	1941号 (甲1187号)	松岡 海地	臨床検査病理学	Tenascin-C promotes differentiation of rat dental pulp cells in vitro
12	1942号 (甲1188号)	大澤 博哉	衛生学	Metabolic syndrome, lifestyle, and dental caries in Japanese school children
13	1943号 (甲1189号)	引田 正宣	口腔外科学	No evidence of association between 8q24 and susceptibility to nonsyndromic cleft lip with or without palate in Japanese population
14	1944号 (甲1190号)	富田 智子	歯科麻酔学	Effects of combined midazolam and propofol sedation on muscle power
15	1945号 (甲1191号)	木下 英明	解剖学	Association between the peri-implant bone structure and stress distribution around the mandibular canal –A three-dimensional finite element analysis–
16	1946号 (甲1192号)	古屋 英敬	解剖学	Analysis of biological apatite crystal orientation in the anterior cortical bone of the human mandible using microbeam X-ray diffractometry
17	1947号 (甲1193号)	江川 昌宏	歯周病学	In vitro adherence of periodontopathic bacteria to zirconia and titanium surfaces
18	1948号 (甲1194号)	石塚 洋一	歯周病学	Degenerative temporomandibular joint in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8) involves abnormal hedgehog signaling



19	1949号 (甲1195号)	渡邊 浩章	歯科保存学	Change in surface properties of zirconia and initial attachment ability of osteoblast-like cells with hydrophilic treatment
20	1950号 (甲1196号)	市川 秀樹	生理学	Voltage-dependent Na ⁺ channels and Ca ²⁺ -activated K ⁺ channels in human odontoblast
21	1951号 (甲1197号)	雨宮 あい	スポーツ歯学	Effects of experimentally deviated mandibular position on stress response
22	1952号 (甲1198号)	齋藤 寛一	オーラルメディシン・ 口腔外科学	Effect of professional oral health care on the risk of oral mucositis due to chemotherapy for breast cancer
23	1953号 (甲1199号)	伊川 裕明	オーラルメディシン・ 口腔外科学	Upper gastrointestinal tract cancers as double-cancers in elderly patients with oral squamous cell carcinoma
24	1954号 (甲1200号)	伊藤 寛史	口腔インプラント学	Response of osteoblast-like cells to zirconia with different surface topography
25	1955号 (甲1201号)	小田 貴士	口腔インプラント学	Plasma cytokine profiles following subcutaneous implantation of titanium in mice
26	1956号 (甲1202号)	吉田 有智	口腔インプラント学	Effect of low-intensity pulsed ultrasound on the bone-healing process in a murine model of low-turnover osteoporosis
27	1957号 (甲1203号)	額賀 英之	スポーツ歯学	Masseter muscle activity in track and field athlete
28	1958号 (甲1204号)	山崎 豪	スポーツ歯学	Influence of the experimentally deviated mandibular position on static standing posture
29	1959号 (甲1205号)	山下 治人	小児歯科学	Phosphoinositide 3-kinase (PI3K) activation was differentially regulated in TGF-β1 and BMP-2/BMP-7 induced osteogenesis
30	1960号 (甲1206号)	呉 明憲	歯科保存学	In vitro evaluation of the effect of sonic vibration on the cleaning capability of root canal irrigants
31	1961号 (甲1207号)	湯浅 算章	臨床検査病理学	Characterization of an artificial fusion protein between BMP-2 and TBP for medical biotechnology
32	1962号 (甲1208号)	石岡みずき	小児歯科学	Expression profiles of NOS isoforms in gingiva of nNOS knockout mice
33	1963号 (甲1209号)	大野 啓介	口腔外科学	Multiple HPV subtypes infection in Japanese oral squamous cell carcinoma
34	1964号 (甲1210号)	小澤 卓充	スポーツ歯学	Shock absorption ability of mouthguard against forceful, traumatic mandibular closure
35	1965号 (甲1211号)	永野 俊介	歯科矯正学	Histological changes of dental pulp to periodontal ligament distraction osteogenesis
36	1966号 (甲1212号)	小山 拓	クラウンブリッジ 補綴学	Cyclic fatigue resistance of yttria-stabilized tetragonal zirconia polycrystals (Y-TZP) with hot isostatic press (HIP) processing
37	1967号 (甲1213号)	山科 光正	オーラルメディシン・ 口腔外科学	Evaluation of light green-stained superficial cells in oral squamous cell carcinoma based on morphometry and immunoexpressions of Cytokeratin 13 and Cytokeratin 17
38	1968号 (甲1214号)	鈴木 正能	歯科矯正学	Finite element analysis of stress in the maxillary dentition during en-masse retraction with implant anchorage
39	1969号 (甲1215号)	澤田 幸作	解剖学	Evaluation of cortical bone thickness and root proximity at maxillary inter-radicular sites for mini-implant placement



平成24年度大学院入学式

平成 24 年 4 月 9 日（月）、千葉校舎第一会議室において 37 名の新入生を迎え、平成 24 年度大学院入学式が挙行された。新入生の呼名の後、井出吉信学長より新入生代表、笠原正彰（解剖）に入学許可証が渡された。引き続いて井出学長からの訓示および井上孝大学院研究科長からの祝辞が与えられ、笠原新入生が新入生を代表して宣誓した。厳粛な雰囲気の中で、新たなスタートを誓う式典となった。



大学院新入生諸君へ

大学院研究科長 井上 孝

日本では大学院の博士課程を卒業すると、PhD と名刺に書くことが許される。これは、英語圏で授与される博士水準の学位 (Doctor of Philosophy) のことで、直訳では「哲学博士」であることは言うまでもない。哲学は、問題の発見や明確化、諸概念の明晰化、命題の関係の整理といった、概念的思考を通じて多様な主題について検討し研究するもので、リベラルアーツ系（人文科学、社会科学、自然科学）の学位の意味が強いが、現在 Ph.D. は、学術の研究を行う者に与えられており、どのような分野の研究にも適応できる学位であるとして「変幻自在な学位」(the protean Ph.D.) と表現する場合もある。

私事であるが、私は Ph.D を修得した翌月から 2 年 間、University of Toronto, Canada の Medical Research Council for Dental Implantology に 留学した。28 歳の時である。当時師事した教授は A.H.Melcher 先生で、歯周再生療法の基礎を築いたことで有名な形態学者で IADR の会長も歴任されている。初めて教授室で打ち合わせをした時の一言は今でも忘れられない。彼は満面の笑みを湛え優しく話しかけた。「ようこそ、トロントへ。君は Ph.D だから、私のラボにいる大学院生を 2 名ほど面倒見てもらおうよ」と。その大学院生は 26 歳のギリシャ人留学生と 28 歳のブラジル人であった。Ph.D のプライドはあったが、如何せん英語での指導が上手いかない。二人

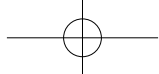
の指導者としての私への疑いの目は日に日に増していった。そんな窮地を救ったのは、東京歯科大学で培った研究の考え方、実験の技量、病態論的知識、等々であった。手前味噌であるが、半年後には教授も「固定法はタカシに見てもらえ」「標本の解析はタカシに聞け」「〇〇は・・・」となり、2 年後に無事学位を修得させることができた。ギリシャ人の彼は、今や世界中で使われている骨形成培地 (β -glycerolphosphate と Dexamethason を添加) を作り出した。彼らは今でも、かけがえのない友達である。

東京歯科大学大学院のアドミッションポリシーは、人間福祉の増進、延いては分化の進展に寄与するとともに、国際的な視野、優れた研究能力、豊かな学識を有する研究指導者および歯科医学に精通した高度な専門職業人を養成することとしている。つまり Ph.D の定義以上のものを東京歯科大学大学院の卒業生には望んでいるわけである。結論として、大学院生のうちに英語を自分のものにし、そして若いうちに留学することをお勧めする。自分の脳が新しく何でも吸収できる Ph.D であるうちに・・・。

大学院における教育と研究

大学院教務部長 東 俊文

新入生の方々はご入学おめでとうございます。また 2 年生以上の方々も桜爛漫の時期も過ぎ、華やいだ雰囲気から、実戦モードに入るところでしょうか。昨年から始まった大学院教育の充実は井上研究科長が取り仕



切られ、私はよろよろではありますが微力を尽くしてまいりました。臨床、研究に大変な中、講義までこなさなければならないのかとぼやく声もちらちら聞こえますが、大体、世の中厳しくなることはあっても易しくなることはないのだと心得た方が良いでしょう、とにかく頑張ってください。

ところで、私は本学に来てようやく数年たったところであり、本学の大学院生の状況も少しずつではありますが、わかるようになってきました。本学での大学院生は4年間で研究を完遂し、論文審査に合格することを持って卒業が認められます。このことは臨床系の大学院生にとっては励みにもなり、良いことであると思います。しかし、教務部長の私がこんなことを言うのと相当怒られるのを承知であえて申しますと、基礎における大学院生にとってはやや不十分な期間かなと感じます。詳しくは他の機会にお話しするとして、この思いの始まりは、基礎系の大学院生の数は年々減少し続けており、大きな問題と感じたからです。基礎研究のみに縛らず臨床もできる立場を与えつつ基礎研究に注力できる道を作っていく限り、おそらくは基礎研究志向の人数の確保は難しいでしょう。ですから、基礎系の大学院生には少し時間的余裕を与え、臨床も同時にできるような仕組みが必要ではないかと感じております。第一、基礎のポストも限られておりますから、将来的な不安は基礎系に進む場合大きなバリアーとなります。臨床ができれば進路の柔軟性もできます。そのような点から、本年度からは基礎系大学院生に対する臨床研修プログラムができました。今年基礎に入られる大学院生の方々は是非この仕組みを有効に使っていただきたいと思います。

研究では基礎・臨床の協力関係はできているように思いますが、これからは臨床教育における基礎・臨床の協力関係がもっともっと充実していくべきではないでしょうか。これからのこの仕組みの更なる充実を私なりに考えてまいりたいと思っております。

最後に、本学大学院生のみさんの研究が順調に進まれ、大きな成果を上げられることを切に願っております。

刻苦奮闘

大学院学生部長 末石研二

新入大学院生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学院では昨年から教育カリキュラムの変更を行い、従来、所属講座や研究室に単独で依存していた大学院生の基礎的教育を大学院として各講座、研究室に依頼して実施するようになっていきます。必修、選択講義が設定され、研究手法を教授するベーシックセミナーとあわせ充実化がはかられました。また、共通講義や大学院セミナーのテーマによる実施も行われています。多くのことを学ぶために積極的に参加してください。

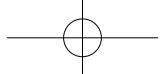
一方、臨床講座では、専門的臨床研修を実施しています。矯正歯科を念頭に考えると、入局後、患者配当ができるように、多くの基本的な臨床研修が最初の数ヶ月で実施されます。これは新入医局員にとってやりがいのある、また、厳しい日々だと思います。したがって、臨床と研究の両立と言う課題を臨床系講座に所属する大学院生は入学直後より抱えることとなりま

す。臨床に根ざした研究者となるには多くの努力と時間とが必要です。自力更生、刻苦奮闘という言葉が毛沢東語録にありました。教育の充実から自力更正はその比重が多少減ったかと思いますが、刻苦奮闘が求められることは変わらないと思います。実りある研究生活を送られることを祈念いたします。



平成24年度大学院入学者 (五十音順)

- | | | | |
|-----------|-----------------|------------|-----------------|
| 1. 有馬 正英 | 臨床検査病理学 | 20. 島 秀輔 | 歯科矯正学 |
| 2. 飯島 由貴 | 歯科矯正学 | 21. 鈴木 瑛一 | 歯周病学 |
| 3. 市野 茂人 | 歯科放射線学 | 22. 鈴木 薫 | 有床義歯補綴学 |
| 4. 井上 健児 | 臨床検査病理学 | 23. 鈴木 美帆 | 歯科放射線学 |
| 5. 岩井 千弥 | 口腔インプラント学 | 24. 高田 満 | 口腔外科学 |
| 6. 梅澤 貴志 | 解剖学 | 25. 高橋由香里 | 口腔インプラント学 |
| 7. 江木 勝彦 | 小児歯科学 | 26. 武内 崇博 | 歯周病学 |
| 8. 大島 光慶 | オーラルメディシン・口腔外科学 | 27. 田嶋さやか | 有床義歯補綴学 |
| 9. 太田 功貴 | 歯周病学 | 28. 田代 宗嗣 | 社会歯科学研究室 |
| 10. 大平 貴士 | 口腔インプラント学 | 29. 戸木田 怜子 | 口腔健康臨床科学 |
| 11. 大峰 悠矢 | 解剖学 | 30. 西山 明宏 | オーラルメディシン・口腔外科学 |
| 12. 小畑 朋邦 | 有床義歯補綴学 | 31. 二宮 文 | 歯科麻酔学 |
| 13. 笠原 正彰 | 解剖学 | 32. 萩尾 美樹 | 有床義歯補綴学 |
| 14. 神田 雄平 | クラウンブリッジ補綴学 | 33. 長谷川大悟 | 口腔外科学 |
| 15. 喜田 晃一 | 口腔インプラント学 | 34. 半沢 篤 | 口腔健康臨床科学 |
| 16. 紺野 倫代 | スポーツ歯学研究室 | 35. 藤瀬 和隆 | 微生物学 |
| 17. 坂本 圭 | 口腔インプラント学 | 36. 藤関 元也 | 有床義歯補綴学 |
| 18. 澤口 夏林 | 歯科麻酔学 | 37. 三井 智治 | 口腔健康臨床科学 |
| 19. 重野健一郎 | 口腔外科学 | | |



平成24年度の大学院カリキュラムについて

平成 23 年度以降の入学者すべて（一般・社会人・口腔がん専門医養成コース）に適用する。平成 22 年度以前の大学院生は、入学時のカリキュラムに則り履修するが、新カリキュラムの授業科目を必要回数受講することにより所定の単位を認定する。

■ 大学院講義

毎週水・木曜日を大学院講義の時間として設定する。

1 時限目：16:30 ～ 17:30

2 時限目：17:40 ～ 18:40

【大学院講義 I】（必修）

- 1) 研究情報学・医学統計学（1 年次必修）
- 2) 細胞学・材料学（1 年次必修）
- 3) 病態学（2 年次必修）
- 4) 咬合学（2 年次必修）

単位の認定基準

出席（70%以上の出席により、評価を得る資格を得る）

評価（試験・レポートなど）

【大学院講義 II】（選択）

- 1) 論文の書き方
- 2) 大学院指導教員による講義

単位の認定基準

出席（15 回以上の出席で 1 単位、30 回の出席で 2 単位）

評価（試験・レポートなど）

■ 大学院セミナー

大学院セミナーは木曜日 2 時限目に実施する。平成

24 年度は「再生」をテーマとして、10 回の講義を外部講師および本学指導教員が担当する。さらに基礎教授連絡会推薦で 3 回、臨床教授連絡会推薦で 3 回の外部講師によるセミナーを実施する。

その他、講座による推薦講師においても、大学院セミナーとして開催する（開催日時は随時）。

また東京歯科大学学会、口腔科学研究センターワークショップへの参加を大学院セミナーの単位に含める（平成 23 年度以降入学者は必須）。単位認定に必要な出席回数は従前と同じとする。

■ 主科目・副科目

主科目 6 単位、副科目 1 単位を認定するにあたり、各講座・研究室は、認定内訳を作成することとする。また、記録簿は、大学院生が管理することとし、指導教員の検印後、教務課へ提出することとする。

■ ベーシック・セミナー

大学院 1、2 年生は、1 回 5 時間（テストを含む）以上のセミナーを、3 回以上（合計 15 時間以上）修了することで 1 単位を取得できる。

■ プロGRESSレポート

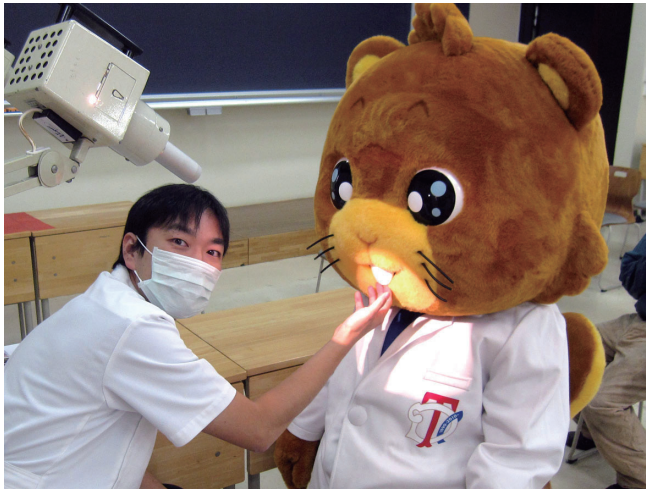
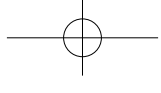
2、4 年次の大学院生に協力を募り、従前から提出されている研究課題届、研究課題進捗状況報告書にそってプロGRESSレポートを、テーマ別講義「論文の書き方」のカリキュラム内で実施する。また大学院生海外研修の報告も合わせて行う。

大学院学生会より

● 平成23年度大学院学生総会開催

平成 23 年 7 月 7 日（木）午後 7 時より千葉校舎第 1 教室において、平成 23 年度大学院学生総会が開催された。当日は大学院生だけでなく、井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、井上孝大学院研究科長、末石研二大学院学生部長も出席した。

はじめに大学院学生会長の石塚洋一（歯周病学講座）による大学院学生会の概要と総会を開催した経緯についての説明がされた後、井出吉信学長より挨拶があり、大学における大学院の重要性および水道橋移転を踏まえた今後の大学院のあり方について説明された。さらに井上孝大学院研究科長、末石研二大学院学生部長よりの挨拶に続き、最後に大学院学生副会長の木下英明



(解剖学講座) から昨年度の活動報告、会計報告および今後の活動方針について説明があった。

当日は研究や臨床を終えた後の忙しい中にもかかわらず、過半数を超える 83 名の大学院生の参加があり、大学院学生会の活動が広く認識されたかと思われる。

今回の大学院学生総会は、歯科のトランスレーショナルリサーチに向って、講座制の枠を超えて大学院生が一堂に集まり、相互のコミュニケーションをはかることができ、大変有意義なものとなった。

● 第43回東歯祭 大学院学生会 無料歯科相談

第 43 回東歯祭が平成 23 年 10 月 29 日 (土)・30 日 (日) の 2 日間にわたり千葉校舎において開催された。

大学院学生会では例年好評をいただいている無料歯科相談を行った。これは毎年、教養棟一階の第 6 教室で歯科衛生士専門学校によるブラッシング指導のブースに隣接して行っている。ブラッシング指導の華やかさと比較するとかなり地味な雰囲気 of 歯科相談だが、今年も両日合わせて約 40 人の方が相談に訪れ、普段なかなか歯科医師に直接聞くことのできない不安や悩みの相談があった。

歯周病学講座大学院 1 年の備前島崇浩先生、喜田大智先生は、歯科医師になってまだ 2 年目とは思えないほど素晴らしい対応で親身に来場者の相談を聞いて適確なアドバイスをしていた。来場者の中にはお子さんの大学院進学で迷っている親御さんもあり、大学院に進学させたほうがよいか、大学院生活はどうかなどの質問に対し、自身の体験を交えて説明した。普段聞くことのできない大学院生の生の声を聞けたことは、親御さんにとっても貴重であったと思われる。

また東京歯科大学のマスコットキャラクターであるビバノスケや、地元千葉に本拠地を置く千葉ロッテマリーンズからマーくん、リーンちゃんとチアパフォーマー M ☆ Splash!! も相談に来場して、日頃ヒトだけを対象としている我々にとっても、大変貴重な体験になった。

今年は、両日とも穏やかな天候に恵まれ、来場者も多かったように感じた。来年以降も一般の方々 と 歯科 医院 の かけ 橋 と な れ る よ う、こ の 無 料 歯 科 相 談 が 継 続 し て い く こ と を 期 待 し て い る。

大学院学生会 学生会長の交代

平成 23 年度大学院学生会長

歯周学講座 石塚洋一

平成 23 年度、東京歯科大学大学院歯学研究科の学生会長を務めさせていただきました。水道橋移転を数年後にひかえた重要な時期に身に余る光栄であると同時に、身の引き締まる思いでございました。

一昨年度から井上孝教授が大学院研究科長に就任され、前任である浅井知宏会長、大久保信貴副会長をはじめ、諸先生方の御協力によって、学生会の活動が、より活発になってまいりました。

また一昨年度は、1958 年に本大学院が開設されて以来、初めての大学院修了式が挙行されました。未曾有の大震災の影響で、その後予定していた学生会主催の懇親会は自粛いたしました。会費の一部と合わせて 124,000 円を東京歯科大学同窓会に義援金として寄付いたしました。

昨年度は、副会長の木下英明とともに、7 月に大学院学生総会を開催いたしました。当日は、井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、井上孝大学院研究科長、末石研二大学院学生部長の立ち会いのもと、過半数を超える 83 名の大学院生が出席しました。今後の大学院学生会の活動方針を主な議題とし、大変有意義なものとなりました。

平成 23 年度は、39 名の大学院生が、大学院歯学研究科博士課程を修了いたしました。これもひとえに御指導頂いた諸先生方のおかげであり、これまでお世話になった諸先生方をお招きして、大学院修了式後、学生会主催による懇親会を初めて開催いたしました。

我々、修了生一同は、伝統ある東京歯科大学の大学院を修了したことを誇りに思い、ひとりひとり前を向いて、世界のリーダーシップをとる、研究者・歯科医師として活躍し、新しい時代を創造していく覚悟であります。

最後に、これまで御指導くださいました井出学長をはじめとする諸先生方、職員の皆様に重ねて御礼申し上げますと共に、皆様の御健康と東京歯科大学の更なる発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

平成 24 年度大学院学生会長

歯科矯正学講座 安村敏彦

このたび、平成 24 年 4 月 1 日をもちまして東京歯科大学大学院歯学研究科の学生会長を拝命致しました。歯科矯正学講座の安村敏彦です。水道橋移転がいよいよ来年実現する重要な時期に身に余る光栄であると同時に、その責務の重大さに身のひきしめる思いでおります。

昨年度は前会長の石塚洋一先生、前副会長の木下英明先生が学生会を活性化させ、歯科のトランスレショナルリサーチの為、多くの活動に取り組んでおられました。

「Two heads are better than one」(三人寄れば文殊の知恵)の言葉どおり意見を出し合い、お互いに教え学び合い、また励まし合う事で研究はより進んでいくのではないのかと私も思っております。諸先生が築き上げた方向性と事業をさらに本年度一歩前進させ、来年度の水道橋へ移転に向けて、勢いのある大学院歯学研究科となるよう活動を継続して行っていきたいと思っております。

今年度は、解剖学講座に所属しております副会長の中尾正とともに、まずは大学院学生総会の開催の準備に取り組みたいと思っております。研究、臨床、教育とお忙しい日々であることは存じますが是非とも出席し大学院学生総会にて良いアイデアをシェアしていただければ「いいね!」と思っております。また大学院生同士が活発に意見交換を出来るように大学院生専用の共有スペースを今よりもさらに親しみやすいゾーン、息抜きのできるゾーンとして大学院生に提案して行きたいと思っております。

「All for one and one for all」(皆は一人のため、一人は皆のため)の精神をもって、お互い助け合い、充実した大学院生活を送る事が出来るように務めたいと思っております。甚だ微力ではございますが、諸先生の偉大な功績を受け継ぎ、本学の発展のために、専心努力する所存です。

今後とも何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

平成23年度大学院 ベーシックセミナー報告



平成 23 年度大学院ベーシックセミナーは、平成 23 年 12 月 1 日（木）から平成 24 年 1 月 19 日（木）の期間に、千葉校舎基礎棟の研究機器施設を会場として開催された。

【第 1 回】12 月 1 日（木）

パラフィン包埋、凍結包埋の薄切試料または培養細胞を用いた HE 染色または蛍光染色と万能写真顕微鏡、共焦点レーザースキャン顕微鏡による画像取得
担当者：橋本准教授（口科研研究機器管理副部長・生物学）、国分助教（微生物学）、國分助教（臨床検査病理学）、高野研究支援者（臨床検査病理学）、田所研究技術員（口科研）

参加者：31 名

【第 2 回】12 月 5 日（月）

SEM 試料作製と走査電子顕微鏡（SEM）による画像取得
担当者：橋本准教授（口科研研究機器管理副部長・生物学）、国分助教（微生物学）、高野研究支援者（臨床検査病理学）、田所研究技術員（口科研）

参加者：14 名

【第 3 回】12 月 6 日（火）

TEM 試料作製（超薄切）と電子線トモグラフィシステム（3D-TEM）による画像取得
担当者：橋本准教授（口科研研究機器管理副部長・生物学）、高野研究支援者（臨床検査病理学）、田所研究技術員（口科研）

参加者：7 名

【第 4 回】12 月 8 日（木）

硬組織のマイクロ CT によるスライス画像の取得と 3D 構造解析ソフトウェア（TRI/3D-BON・FEM・BMD）による 3D 画像解析
担当者：松永講師（解剖学）、渡辺研究技術員（口科研）、岡野研究技術員（口科研）

参加者：19 名

【第 5 回】12 月 12 日（月）

X 線光電子分析装置、微小部・薄膜 X 線回折装置、電子線マイクロアナライザーによる同一試料の分析
担当者：吉成教授（口科研研究機器管理副部長・歯科理工学）、渡辺研究技術員（口科研）

参加者：5 名

【第 6 回】12 月 13 日（火）

3D 測定レーザー顕微鏡と 3D 解析走査電子顕微鏡（3D-SEM）による同一試料の粗さ解析
担当者：武本講師（歯科理工学）、田所研究技術員（口科研）、北澤研究補助員（口科研）

参加者：7 名

【第 7 回】12 月 15 日（木）

マルチモードマイクロプレートリーダー、ジェネティックアナライザー、リアルタイム PCR 使用の実際
担当者：加藤准教授（口科研研究機器管理副部長・化学）、稲垣助教（微生物学）

参加者：29 名

【第8回】1月12日（木）

歯列石膏模型形態計測解析装置による三次元形状データの取得と3D点群データ処理ソフトウェアによる3D画像解析

担当者：西井助教（歯科矯正学）、岡野研究技術員（口科研）

参加者：12名

【第9回】1月19日（木）

細胞培養室使用説明と培養細胞を用いたFACS-Ariaによる解析

担当者：国分助教（微生物学）、北澤研究補助員（口科研）

参加者：22名

大学院学生部からお知らせ

日本学生支援機構奨学金について

大学院生に対する奨学金として、日本学生支援機構の奨学金制度があります。募集については、毎年4月中旬に各大学院生に周知しています。

例年、採用枠数は、無利子（第1種奨学金）で10数名ですが、その対象は1年次となっており、募集定員が充足されない場合に限り2年次以上の在籍者の応募が可能となっています。

なお、一度採用になれば、大学院の修学が修了するまでの受給が可能となりますが、毎年年度末に継続願いの申請手続きを必ず行うようになります。

また、在学中に研究や学業成績等で優れた業績を残された者に、修了時に借入金額を特別免除される制度もありますので、奨学金を有効に活用し学業に専念してください。

利子補給奨学金制度について

利子補給奨学金制度とは、入学手続き時に、提携

学資ローンを利用した学生に対し、それに掛かる利子4.3%のうち3%を給付する制度です。給付期間は、最短修業年数です。なお、毎年奨学金申請の手続きが必要です。また、経済的困窮による提携学資ローンの利用者についても審査後、給付される場合があります。詳しくは大学事務局会計課までお問い合わせください。

学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険への加入について

平成23年度より、全大学院生が修了年限まで「学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険」に加入しました（24年度以降は、新入生のみ加入）。

この保険は、学校施設内外問わず、正課中等に本人が怪我をした場合や他人に怪我を負わせてしまった場合や、他人のモノを壊してしまったとき等、法律上の賠償責任を負った場合に対し補償がされます。事故等の場合は、速やかに連絡してください。

編集後記

大学院広報活動の一環として、刊行する大学院だよりも3号を迎えました。年度末から年度始めに刊行し、4月より行われる大学院カリキュラム等の大学院教育活動の予定をお伝えし、また前年度の記録をしたため、大学院生にとって役立つ便りとなる事を願っています。（末石 記）